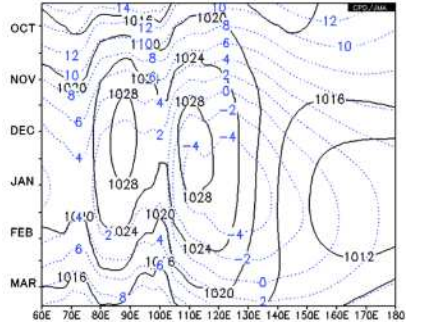
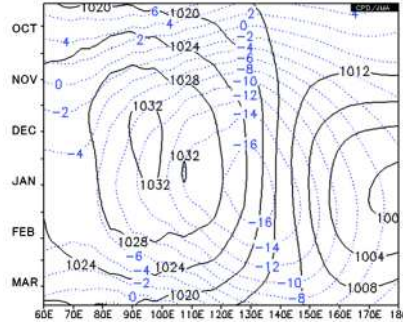
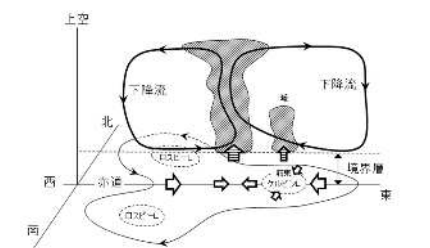
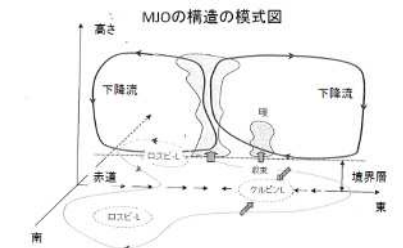


平成 24 年度季節予報研修テキスト正誤表

最終更新日：2016 年 4 月 11 日

該当箇所	正	誤
58 頁 右段の最終行	オホーツク海高気圧が <u>現れにくい</u>	オホーツク海高気圧が <u>現れやすい</u>
64 頁 第 2.3.3.33 図の右図	 <p>正しい図に差し替え</p>	 <p>正しい図に差し替え</p>
* 116 頁 第 2.4.16 図の模式図	 <p>図を差し替え</p>	 <p>図を差し替え</p>
* 116 頁 第 2.4.16 図の説明	<p>ケルビンL、ロスビーLは、赤道ケルビン波と赤道ロスビー波による下層の低気圧性循環を表す。図中の雲は対流活動を示す。赤道ケルビン波と赤道ロスビー波を励起する大規模な対流活動の東側に、境界層の摩擦の影響を受けた下層収束と弱い対流が出来る。Wang(2005)の Figure 10.13 に基づき作図。</p>	<p>ケルビンL、ロスビーLは、赤道ケルビン波と赤道ロスビー波による下層の低気圧性循環を表す。図中の雲は対流活動を示す。赤道ケルビン波と赤道ロスビー波を励起する大規模な対流活動の東側に、境界層の摩擦の影響を受けた下層収束と弱い対流が出来る。Wang(2005)の Figure 10.13 に加筆。</p>
* 251 頁 第 4.2.2 表の定義列の上から 14 行目	<p>40°N における 90°E ~ 170°E で平均した 500hPa 高度平年偏差 - 60°N における 90°E ~ 170°E で平均した 500hPa 高度平年偏差 (高指数(正)は東西の流れが卓越)</p>	<p>40°N における 90°N ~ 170°E で平均した 500hPa 高度平年偏差 - 60°N における 90°N ~ 170°E で平均した 500hPa 高度平年偏差 (高指数(正)は東西の流れが卓越)</p>
* 251 頁 第 4.2.2 表の定義列の上から 15 行目	<p>40°N における 140°E ~ 170°E で平均した 500hPa 高度平年偏差</p>	<p>40°N における 140°N ~ 170°E で平均した 500hPa 高度平年偏差</p>

* 251 頁 第 4.2.2 表の定義列の上から 17 行目	30°N における 120°E ~ 140°E で平均した 500hPa 高度 1 年偏差	30°N における 120°E ~ 140°E で平均した 500hPa 高度 1 年偏差
273 頁 (4.4.9) 式の 3 行下	完全予報のときは $b=b_{rel}=0$	完全予報のときは $b_c=b_{rel}=0$
279 頁 右段の下から 3 行目	RPS(RPSr)の期待値は 0.78 となる。	RPS(RPSr)は 0.73 となる。
280 頁 付録 4.4.A のはじめの式の D 項	$\sum_i p^2 \frac{N_i}{N}$	$\sum_i p^2 \frac{M_i}{N_i} \frac{N_i}{N}$
* 350 頁 下段最下行の用語「1 か月予報」の説明	次の土曜日から向こう 1 か月の気温、降水量などの総括的な予報。	翌週から向こう 1 か月の気温、降水量などの総括的な予報。
* 351 頁 上段 5 行目の用語「異常天候早期警戒情報」の説明	情報発表日の 5 日後から 14 日後までを対象として、7 日間平均気温が「かなり高い」または「かなり低い」となる確率や 7 日間降雪量が「かなり多い」となる確率が 30%を超えると予測した場合に発表する情報。	情報発表日の 5 日後から 14 日後までを対象として、7 日間平均気温が「かなり高い」または「かなり低い」となる確率や 7 日間降雪量が「かなり多い」となる確率が 30%を超えると予測した場合に発表する情報。
* 353 頁 上段 4 行目の用語「平年並、平年より～」	削除	「平年並」「平年より高い」などの表現は、「平年並」「高い」といった階級区分の範囲に値が入ることを意味する。通常、階級区分は「平年より～」といった表現を用いるが、階級区分を示さない場合は、その平年値との差を示す「平年値を上回る」といった表現を用いる。

2016 年 4 月 11 日版で追加した修正には、先頭に「*」を付しています。

【文書履歴】

2015 年 3 月 4 日版

2016 年 4 月 11 日版